

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470900202		
法人名	医療法人 積善会		
事業所名	グループホーム和の里		
所在地	大分県豊後高田市呉崎755-33		
自己評価作成日	令和6年1月31日	評価結果市町村受理日	令和6年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和6年2月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染症等で思うような活動や外出が出来なかったが、皆様に笑顔が見られるようにソフトクリームを食べに出かけ、日頃食事を全く摂らない方が好物で完食、他の方も喜ばれました。運動会では魚釣り競技を取り入れ、漁師をしていた男性入居者が腕前を發揮して大漁でした。女性も夢中に釣りあげて魚釣りを競って大変盛り上がりました。何年かぶりに男性入居者が2名になり家事活動に不安がありましたが、綺麗好きな方にはモップかけをお願いして居室や廊下、ホールと毎日の役割で綺麗になることでやりがいを感じている。一人の方も隣の女性の方と食器拭きをしたり、金魚の餌やり、スタッフと一緒にゴミ出しをして施設周りを1周歩いて帰る等、役割を持ちやりがいと気分転換を図る。ホーム周りの花壇の花を植えて散歩時の楽しみと草取りをしたい方と一緒に手入れをしている。制限がある中でも得意分野や希望することが少しでも実現できるように工夫して支援に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・玄関先には水仙やパンジーなどの花が咲き誇りホールや居室には観葉植物が置かれて、利用者が心穏やかに過ごせるように配慮がされている。
- ・利用者本位の支援に心掛けています。出来る事は一緒に行き、利用者が役割を持ち生きがいに感じられるよう支援している。
- ・協力医や訪問看護との連携が取れており安心して暮らすことが出来ている。
- ・法人の老健施設から定期的に歯科衛生士が訪れ歯の健康維持に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られる (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である、尊厳を守る事、地域密着型サービスであることを毎月のミーティングで職員全員で共有し合い実践に繋げている。	理念を玄関や事務所に掲示して職員の意識付けを行っている。ミーティングで職員みんなが気づいたことなどを話し合い、情報を共有している。利用者の能力を引き出すよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染も5類になるが職員からの持ち込みで感染発症が9月と11月にあり、地域の方々との交流が以前のように出来ていない 運営推進会の出席や交流では無いが手作りの干支を届けてくれたり、旬の筍や柿等頂き季節を味わってもら	色々な行事やボランティアの受け入れを出来れば早く再開したいと思っている。地域の人から旬のタケノコや栗などの差し入れがある。手作りの干支の置き物をもらうなど、地域との交流は続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から友達の家族や親戚の認知症の方の相談は受け、悩みを聞いたり対応の仕方を実践を生かして理解や支援の方法、介護保険の申請の仕方等助言している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告後それぞれの立場からの感想や意見交換してホームの運営にいかしている。コロナ禍で書面での報告し、意見を頂いていたが、今年度より会議の場を併設施設に提供して頂き意見交換出来て和の里の運営に生かしている	2か月に1回対面で開催されている。地区の代表者は毎回参加されており、施設と地域の双方の情報発信が出来ている。地域の人から、施設の行事の時は手伝うので声を掛けてほしいと言われている。包括支援センターの人からはコロナの情報をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席時には感染状況など助言して下さる議事録でホームの状況や取り組みを伝えている 今後もボランティアの状況や受け入れの相談していきたい 9月の公民館での大衆演劇開催時は早くから連絡をしてくれていたがコロナ感染発症の為参加出来ず残念でした	市とは常に連絡を取っている。コロナ関連や災害について注意点など相談しアドバイスしてもらっている。推進会議の時にも最新の情報が得られている。避難場所の変更があった時は知れさせてくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修会動画研修に参加、拘束にあたる具体的な行為を正しく理解するように、ホームでは、どのようなことが拘束に当たるのか、スピーチロック、言葉の抑制についてなどを毎月のミーティングで確認している。	法人や外部の研修に参加している。家族と相談の上、転落防止の為センサーマットを使用している。スピーチロックについては気づいたら後で注意している。理解してもらえようように言い方を変えたりする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の種類などを勉強し、日頃のケアでいずれかの虐待にあたるのではないかと検討して、悪気が無くしていた行動が虐待に辺り、自身が懲戒免職となり事業所が運営取り消し処分になることがあるなど職員全員で周知して防止に努める		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について外部研修(ZOOM)、内部研修会で弁護士の方から実際の事例を通して学ぶことが出来たが成年後見制度についての研修で学ぶ機会はなかった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に詳しく説明し納得してもらい 不明な点等は丁寧に聞き直している。利用料他改定の際には十分に説明して納得の上で同意してもらっている。利用者の状態変化に伴い、家族に報告相談していく事を契約時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、個人的に不満や要望を聞く機会を設けている。家族にも来居時や電話での連絡時やラインで意見を聞くようにしている。要望や意見を職員間で共有している。運営会議の議事録に上げて報告し、意見を運営に反映している。	入居時や面会・電話をした時などに希望を聞いている。何でも気軽に言える関係づくりに努めている。転倒を怒れずどんどん活動させて下さいと言われ、モップ掛けや洗濯物たたみなど利用者にしてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より良好な職員関係を築き、ミーティングの場で意見交換して、提案を運営に反映できるようにしている。	ミーティング時に意見を聞いているが、日常的にその都度聞いている。業務に関しても言いやすい雰囲気づくりに努めている。勤務希望や有給休暇取得も要望に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、代表者(法人理事長)と職員が直接話せる会議があり、運営に反映出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会、リスク、感染、接遇他、緊急時の対応避難訓練等感染時の対応PPE着用着脱、正しい手洗いの仕方が各自出来ているか実施研修している 研修後に各自が理解が出来ているかをテスト提出、理解度が低い場合は再度見直しテストを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接しているグループホームの管理者、職員と連絡を取り、行き来して情報交換、相談をし運営に反映している。GH協会開催の研修に職員と参加して他のホームでの取り組みなど聞く機会が出来た		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、本人の状態を把握するように努め、日頃より本人の思いに向き合い、気持ちをくみ取り、職員全員が受入れてもらえる関係づくりに努めている。 在宅での習慣を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に詳しく面談して、家族などが困っている事、ホームでの生活に対する不安や要望等を傾聴して、事業所としての対応を話し合っている。来居時や電話、ラインで要望を伝えてもらっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活習慣、病歴、ADLを把握し、一番に必要なとしている支援を見極め、本人・家族が安心してホームでの生活が送れるよう、本人家族のから希望や要望を聞き職員全員で対応出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活活動の中で、出来る家事、得意分野を知り持っている力、能力を見極めて発揮できる場を設けて、自分はホームの生活の中で役立っている、皆が助かっていると言う意識を持ってもらえるように常に感謝の言葉を述べている。職員も頼りにしながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流を大切にしていいつでも会いたいときに面会出来るようにしている。家族に身体、精神面の変化等電話やラインで伝え、状態が見えるようにしている 家族の協力があり、安心してホームで生活が送れる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で厳しい状況であったがドライブで自宅の様子を見に行き家族が綺麗に管理してくれているのがわかり安心していた。病気で面会が出来ない方とはこちらから外出して逢う事が出来喜ばれる 自宅には行けない方も自宅近くの海や馴染みの場所に出かけている	ふるさと訪問で外出の機会を作っている。出会った近所の人から声を掛けてもらった事もある。家族が知人を施設に連れてきたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を尊重し、気の合う人と気軽に話しが出来るような席の配置をしている。役割分担して利用者のできる家事をして頂き、利用者同士の関係を円滑にできるようにしている。朝夕の挨拶、新聞の回し読み、皆様気遣いされ、家事を分担して声掛けながら活躍している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	環境の変化での不安が少しでも軽減できるように行先の事業所にホームでの生活での情報を細かく伝えていく家族の方も退居後も連絡を取り、経過を聞いたり、ご家族からボランティアとして協力関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の情報を収集し、利用者、家族とコミュニケーションをとりながら、希望、意向を把握する。困難な場合は、寄り添い、色々な場面での言動、表情の変化を見極め、思いや意向を理解するように努めている。	生活歴を聞きながら希望を汲み取っている。ふだんの会話の中から聞ける本音を把握している。言えない人は家族から希望を聞いている。新しい発見があれば記録に残し皆で共有し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にヒアリングをして、生活歴やその人のライフスタイルを聞いてはいるが、充分でない場合は本人や家族、関係者に聞き取りを行っている。入居前に利用していたデイサービス利用時の様子を見たり職員に聞き取りしておく 体調・精神面での変化を記録に残し、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、日々の生活の中で心身の状態の変化に気づくように日頃の状態をしっかりと観ることを心がけている。表情や、発した言葉などを職員で共有して持っている力や能力を引き出せるようにしている。出来る事出来ない事を見極めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活していく中で、楽しみややりたいこと、活動の中で発した言葉などを逃さず、家族からも機会ある時に情報を収集してプランに取り入れる。情報を職員、多職種と共有して日々の生活、活動に意見やアイデアを反映し、評価している。	3か月ごとに担当職員の意見を聞きながらプランの見直しをしている。毎月のミーティングでニーズに沿ったサービスが行われているか話し合っている。家族にも意見を聞いてプランを作成している。状態に変化があれば、その都度プランの変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日体調、精神面での特記事項発した言葉や表情を個別に状態がわかる介護記録して申し送り簿、1回/月のミーティングで情報を共有しながら介護計画書の見直しに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のリハビリスタッフと連携して身体機能の評価を3ヶ月に1回、管理栄養士に栄養の評価アドバイスを1ヶ月毎に状態の変化に伴い相談しながらサービスを変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館での演劇鑑賞はコロナ感染の為参加出来なかった。ボランティアの訪問なども中止になっているが軍手で作った干支を「皆様に見せて」と頂く施設周りが1周散歩が出来るコースになっており景色を見ながら気分転換や運動が出来る		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人家族に馴染みのかかりつけ医や緊急時の搬送を希望する病院名を聞いている。状態の変化に伴い、本人家族の希望する病院を受診している。協力医に1/週で往診があり、必要な予防接種等受けている	入居時にこれまでのかかりつけ医を利用することが出来る。協力医から毎週1回の訪問診療があり、健康診断も行っている。病院受診は職員が同行している。昼夜問わず急変時にも協力医の指示を受けて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より全身状態を把握して食事や顔色、便の状態等変化に気づき、協力医に連絡相談している 変化等の気づきを職員全員で共有して早期の受診を心掛けている 緊急の処置は併設の看護師に相談し処置してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に対して本人の情報を詳しく提供し、家族や医療関係者と話し合いながら、入院中も相談員と連絡を取り合い退院に向けて支援するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について、面談、入居時に家族にホームの方針を伝えている。状態の変化に伴い、家族に状態報告し状態を理解してもらい、職員、家族、協力医、多職種職員とも相談しながら、利用者の終末期に向けて支援している。	看取りは行わない方針を説明し、了承の上入居している。重度化した場合は法人の老健や特養、病院へ入所入院の話をしている。それまでは施設で出来るだけの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間一人対応でも慌てないように、急変時のマニュアルを作成している。心臓マッサージやAEDの使用法等消防の方より定期的に職員全員実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の夜間1人体制の時間の災害に不安がある。年間を通して日中、夜間火災避難訓練、水害時の避難訓練を実施している。Web研修や理解度チェックテストを受けてスムーズに避難が実践出来るようにしている。併設施設職員や近隣の消防隊の方にも協力をお願いしている	年4回の火災や水害の避難訓練をしている。昼夜想定で法人の2階に避難をしている。訓練時に近所の人にも協力を依頼している。備蓄は法人に3日分ある。施設には飲料水が置かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室時、理由を説明し、同意を得ている。トイレでの確認等必ずノックをして介助の声掛けをさせてもらっている。利用者に対しての声掛けは人生の先輩と言う事を忘れずに失礼がないように、わかりやすく丁寧な言葉かけ対応をこころがけている	入室時やトイレ誘導時にはわかるように声掛けを工夫している。本人が嫌なことはしない、また自尊心を傷つけないように声掛けに気を付けている。面会簿はその都度はずしている。ファイル等は見られないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日々の生活で一人一人とコミュニケーションをとり、話しやすい関係を築き、思いや希望を言い表せる関係づくり、利用者が決定できる声掛けをするように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に体調、希望を聞きながら日々過ごして頂くようにしている。外気浴や運動、家事、余暇等一人一人のペースで過ごすことが出来るように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分好みの服を着て頂くようにご自分で出来る方は着ていただき、介助が必要な方は家族からの要望等を聞き、年中季節に合わせた家族手編みの帽子を10通りを被り替え、服に合わせている。髭剃り、整髪、スキンケア、目ヤニや服の汚れ等重視している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節が感じられる食事やおやつが摂れるように旬の食材や果物等好物を聞きながら個人に合わせて提供している。テーブル拭きや下膳、食器拭き等準備や片付けお茶の葉入れ等一緒にしている「. 頂きます」を毎日交代して声出している	副食は老健から運ばれて来る。その人の状態に合わせて刻み食やミキサー食などに変えている。クリスマス会など行事の時は好みを聞いて、手巻き寿司や焼きそばなどを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合わせて量や形態を変えている。栄養状態を把握して、捕食や食事、水分量形態を栄養士、主治医等相談しながら捕食や好みの飲み物等把握して提供し水分、食事量を記録して脱水等に注意している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の方が1回/月訪問、口腔内のチェックをしているもらい個々に合うケアを指導してもらい、必要な方は治療を受けている。毎食後の口腔ケアを個人にあわせて実施している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中時間毎、必要な方にトイレ誘導実施、便器内での排泄を目指している。夜間帯、歩行が困難な方はポータブルトイレを使用排泄ができています。日中夜間帯でオムツ使用者はいない	リハビリとパッド使用である。夜のみポータブルトイレを使用する人もいます。自分で起きたり、起きない人には様子を見に行きトイレ誘導をしている。無理には起こさず安眠を優先している。手の硬直がありトイレに座りにくい人には手が伸びるようにやさしく腕の屈伸運動をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように日頃から体操や水分補給に努めている。牛乳、オレンジジュース、ヨーグルト、バナナ、梅ジュース等個々に応じて便通に効果がある物で便秘を予防している。改善出来ない場合は下剤、1包や1/2包で調整している			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や温度など希望を聞き、体調を考慮して入浴、足浴、シャワー浴等個々に合わせて支援している。	週3回の入浴である。拒否する時は無理強いせず日を変えたり、清拭やドライシャンプーをするなどしている。袖を入れて気分を変えたり、湯上りには保湿クリームを塗るなど気持ち良く入浴が出来るように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室は利用者の思うような環境にしている。テレビや本を読んだり、適度の運動や昼寝をしたりしてホールでの共同の時間と居室でのプライベートな時間と思い思いに過ごしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報や服薬チェック表で飲み忘れや誤薬を防いでいる。副作用を、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬による症状の変化がある場合、主治医に連絡し指示を受けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗お盆拭き、洗濯たたみ 調理味見、台拭き、金魚のえさやり、布巾縫い、広告、新聞でのゴミ箱折り、モップ掛け等得意な役割を決めて行っている。出来上がった物をトイレのゴミ箱や薬袋や生ごみ入れ等に使用し感謝を伝えやりがいを感じてもらおう			



自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族やボランティアの方の協力で四季折々の地域の行事やイベント、家での行事に参加していたが今年度はコロナ感染で外出機会がすくなかった 神社、海や桜、向日葵の花鑑賞等少人数で車中ドライブ気分転換の外出をしている。漁業をされていた方と海沿いを歩き気分転換している	昭和の町で雑巡りを計画している。こっつん村や栗島様、長崎鼻などヘッドライブに出掛けている。普段は施設の周りを散歩してベンチに腰かけて田園風景を眺めたり、施設の前の金毘羅様にお参りしたり気分転換にもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない 家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望する時電話の支援、タブレットでのリモート面会が出来ている。 幼友達、友人からの年賀状や手紙を時々出して読まれている。懐かしい話を聞かせてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	教養の空間には観葉植物、四季を通しての花を育て、窓越しからでも楽しめるようにしている。木の剪定、日差しにて入ってくる光の調整を配慮。職員の動作、声がストレスに感じないように注意している。居室の植物の設置は本人の希望の有無を伺っている。 水やりをしてくれている	玄関前には花壇やプランターがきれいに整備されている。中庭が明るく全体的に開放的である。ソファが置かれゆったりとテレビを觀賞することが出来る。水槽や観葉植物があり目を楽しませてくれる。壁には貼り絵や写真が飾られている。ひな壇もあり季節を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に2ヶ所のベンチを置き、一人でゆっくりと中庭を眺めて過ごしたり、仲良しの方と会話。ホールのソファでは仲良しの方ゆっくりテレビをみたり、音楽を聴いたり、新聞を読む等、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使い慣れた椅子、テーブル、テレビを持ち込み、家族写真を飾っている。 好きな猫のぬいぐるみをベットにおいて、話しかけたり一緒に寝ている。 ご自分が好みの物を並べたり置いている	居室にも観葉植物が置かれている。これまで使い慣れたテーブルやたんす、写真が持ち込まれ、生活に慣れた衣類も置かれており家にいるような雰囲気づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを目的にした環境、段差や和室を生かして座ったり上がったり、出来る事、わかることを見極めて、個別に対応している。絵や文字で張り紙をしてわかりやすくしている。		